



# 外国ルーツの子どもの学習支援と家庭支援

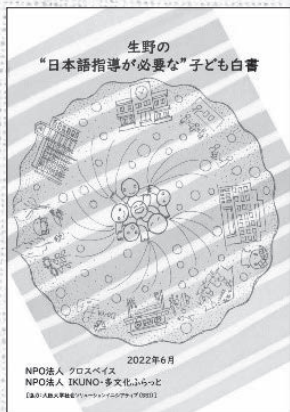
きむ ふあよん  
金 和永さん

(特定非営利活動法人クロスベイス、特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと)

講座7では、金和永さんに「外国ルーツの子どもの学習支援と家庭支援」と題してお話しいただきました。



## 「生野の“日本語指導が必要な”子ども白書」(2022年6月)より



近年、日本で働くことを目的とした外国人居住者が増加しています。それに伴って外国ルーツの子どもが増えてきています。母国を離れ、日本で生活する子どもたち。日本語の習得についていけず、母語も日本語も十分に発達しない「ダブルリミテッド」と呼ばれる状態に陥り、困難を抱えることがあります。文部科学省は、日本語指導が必要な児童生徒の日本語指導を含めた教育の充実を図る方針を打ち出しています。しかし、日本語指導が必要かどうかは、周りのおとなによって判断され、子ども自身の思いが考慮されているとは言い切れません。そのため、子どもが、何に困っているのか、何を求めているのかについて、子どもの視点から捉えなおす必要があり、「生野の“日本語指導が必要な”子ども白書」をつくることになりました。白書では、「日本語指導が必要な”子どもの声の協働的な捉え直し」「子どもを中心に据えた地域づくり」が提言されています。

## 〈白書のための調査から分かってきた、子どもとその保護者の現状〉

### (1) 子どもの思い

- 「日本人みたいじゃない」から嫌がられる。
- 日本語ができなくて、言い返せなかった。
- 日本語をうまく話すと「ハーフ？」と質問される。
- 先生に、日本語ができると思われている。
- 日本語がわからず困っていることを、おとなは理解してくれない。

### (2) 親の特徴 (親の考え方)

- 子どもには、普段から日本語で話してほしい。
- 子どもは、おとなとちがって、すぐに言葉を覚える。
- 子どもが日本語ができるようになったと思っている。
- 子どもの学習内容を把握していない。
- 子どもの困り感を親子で共有できていない。
- 日本の学校システム等の情報が不足している。

## 〈就学前の子どもたちと、その保護者にかかわる時に大切にしてほしいこと〉

### (1) 母語の大切さは、強調してもしすぎることはありません。

- 日本語を早く覚えてほしいという思いから、母語を使うことに消極的になっている可能性があります。
- 母語が伸びなければ、日本語での表現や学力が伸びません。母語と日本語は相互に影響しています。

### (2) 保護者が孤立していないかを把握する必要があります。

- 同じ国出身のコミュニティへの距離をとり、あえてかかわらないという選択をする人がいます。
- 同じ国出身のコミュニティに参加しても、コミュニティで流通する情報が不正確なことがあります。

### (3) 保護者のキャリアや文化に関心を持ちましょう。

- 保護者の母国でのキャリアをリスペクトしたり、関心を示したりすることは、関係づくりの土台になることがあります。
- ルーツがある国の文化について、他の子どもや保護者にも知ってもらいましょう。

## 【参加者のアンケートより】

- 初めて“ダブルリミテッド”という言葉を知りました。私がかかわっている子どもたちは、母語も日本語も定着しないまま、色々な言語が飛び交うなかで生活していることを改めて認識しました。子どもの学習面だけでなく、親とコミュニケーションをとるためにも、母語の大切さを伝えていきたいと思います。
- 私にできることは、子どもがくらしのなかで、何語を基にコミュニケーションをとっているのかを把握することだと思いました。そのうえで、本人へのサポートを考えたいと思います。

